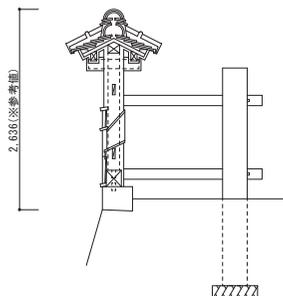


整備案

① 宇土櫓－御着部屋櫓間  
復元想定断面図 S:1/50

方針) 従来復元の堀に倣い復元する。  
(『明和絵図』内に「籠堀」と記載)

課題) ・熊本城跡復元年代設定との齟齬  
③と同様、「廊下堀」であったものを、明和5年(1768)に「籠堀」に作り替えたことが記されている。



② 御着部屋櫓  
(平面表示の城内参考例を図示)

方針) 石垣修理を行い、城外側に囲い柵をし、平面表示。

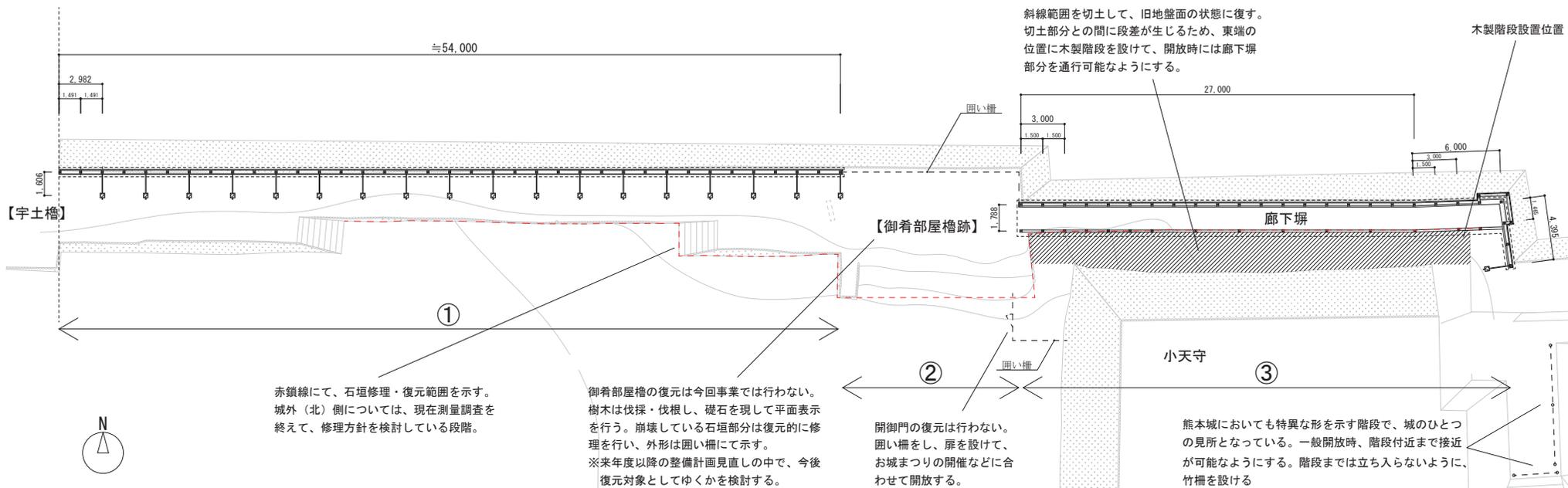
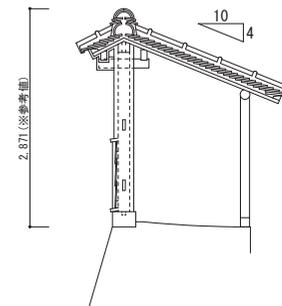
平面表示参考例  
<熊本城内：御客方御櫓跡>  
礎石を現し、壁部分については、木柵にて整備。  
表示により、かつての櫓を説明している。



③ 御着部屋櫓－平櫓間  
復元想定断面図 S:1/50

方針) 「廊下堀」として復元。

課題) ・「廊下堀」の詳細  
城内側の仕様不明な箇所がある。

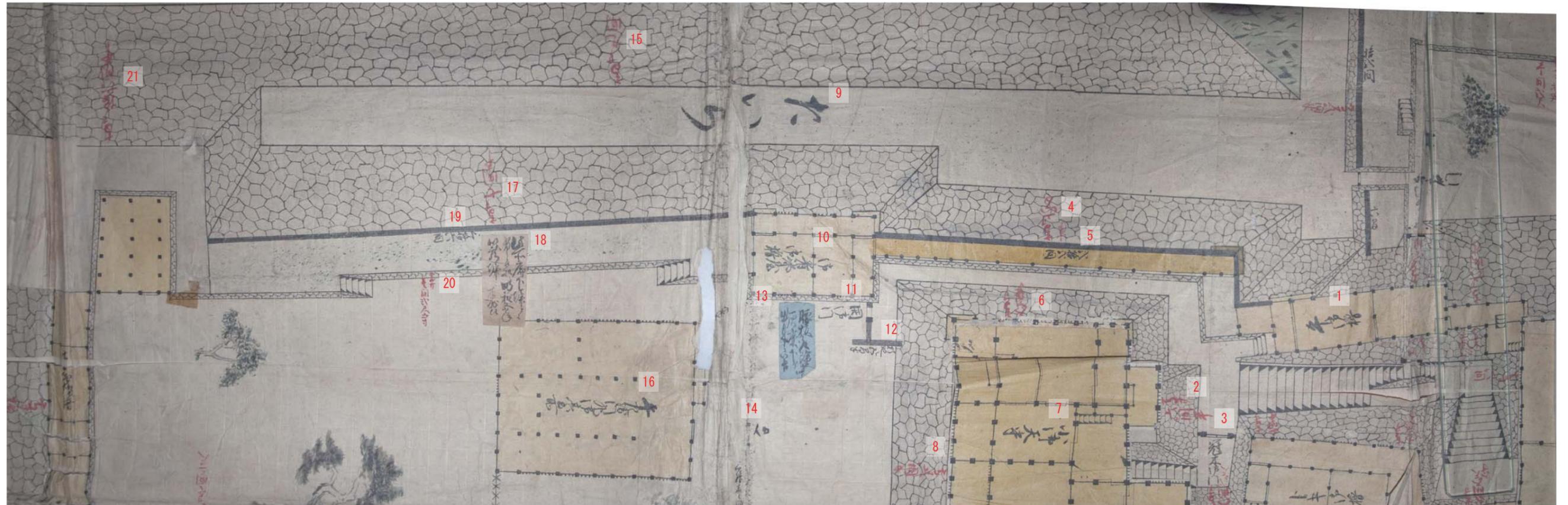


4) 明和絵図内記述の読解

『御城内御絵図』

熊本市教育委員会蔵

制作年代：明和6年（1769） 描写年代：明和6年（1769）



平左衛門丸堀部分拡大



源之進櫓部分拡大（「廊下堀」の記載アリ）

- |        |          |      |                     |       |         |      |    |              |       |     |        |     |       |      |       |      |       |      |       |     |
|--------|----------|------|---------------------|-------|---------|------|----|--------------|-------|-----|--------|-----|-------|------|-------|------|-------|------|-------|-----|
| 21     | 20       | 19   | 18                  | 17    | 16      | 15   | 14 | 13           | 12    | 11  | 10     | 9   | 8     | 7    | 6     | 5    | 4     | 3    | 2     | 1   |
| 高サ拾六間半 | 高サ七間二尺六寸 | 三拾六間 | 此所廊下堀二而五年有之候処二相成候籠堀 | 高サ七間半 | 平左衛門御台所 | 高サ九間 | 入口 | 腰板取除灰塗下ケ出来之筈 | 折廻五間半 | 開御門 | 御肴部屋御櫓 | たいら | 高サ六間半 | 小御天守 | 高サ五間半 | 式拾式間 | 高サ六間半 | 冠木御門 | 高サ六間半 | 平御櫓 |

⑫ 坪井川からの眺望(1)

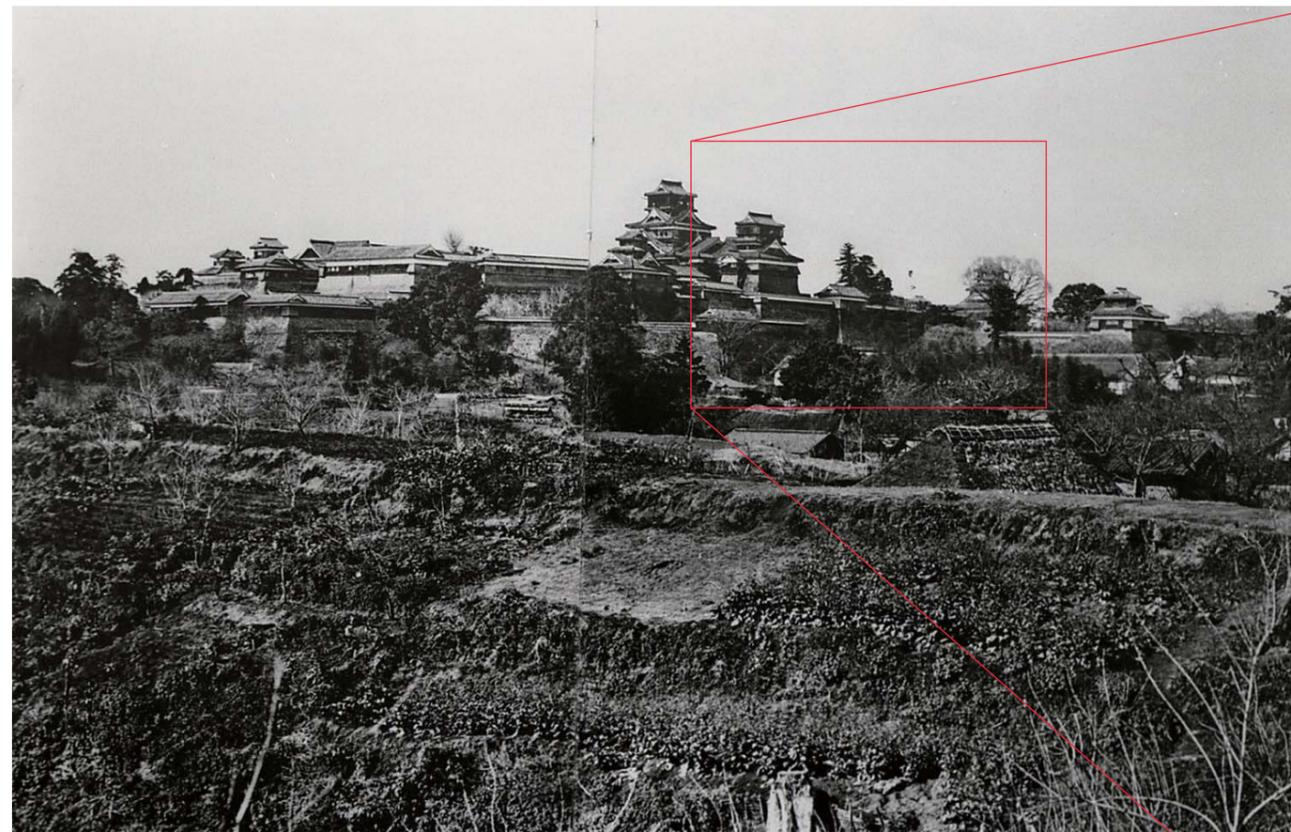
富重写真館蔵 撮影年代:明治初期

【写真の説明】

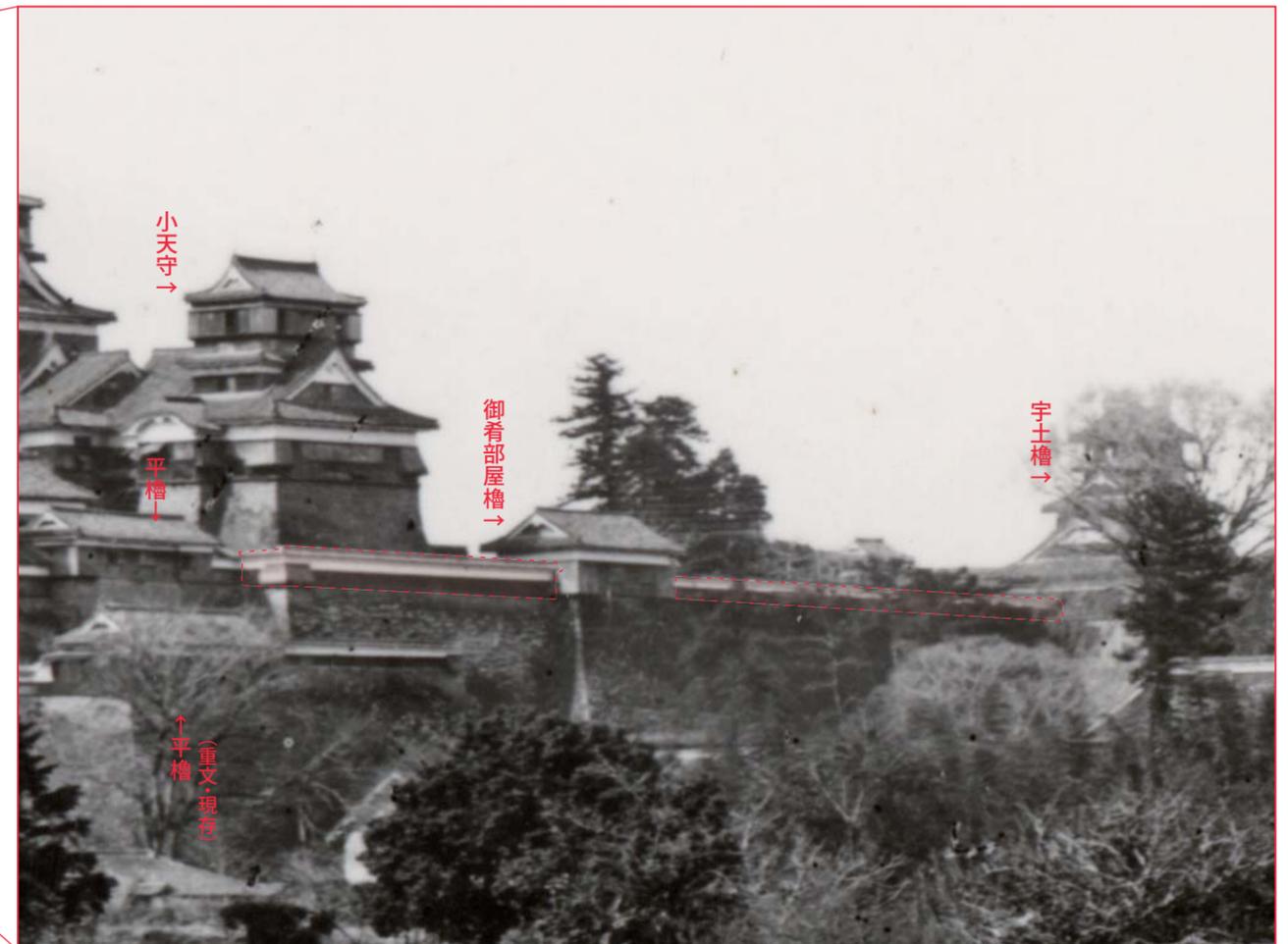
熊本城の北東側坪井川より撮影された写真。

【概要】

- ・御肴部屋櫓—平櫓間の塀(東側)、宇土櫓—御肴部屋櫓間の塀(西側)が写る。
- ・屋根は本瓦葺、壁は上半分が漆喰塗籠め、下半分が腰下見板張り。
- ・東側塀の屈折部分で棟が連続していない。
- ・東側塀の屈折部分に石落しが設けられている。
- ・西側は木々により、石落しの有無などの詳細が把握しづらい。(ただし、腰下見板部分の反射の加減からは、石落しは無いように見える。)



全体



平左衛門丸塀部分拡大